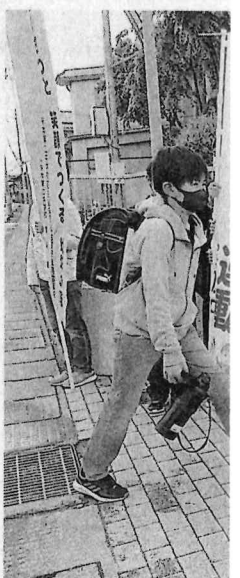


元高く、価値して才をせり開く人」。市内3中学校区ではその姿を共有し、児童生徒の学びや成長を支える小中連携を深めている。中学生は母校の小学校に

あいつ運動を地域の人

矢本二中の渋谷和彦教頭は「児童生徒が他者と関わる場面を増やし、『出演』『役割』『承認』を与える

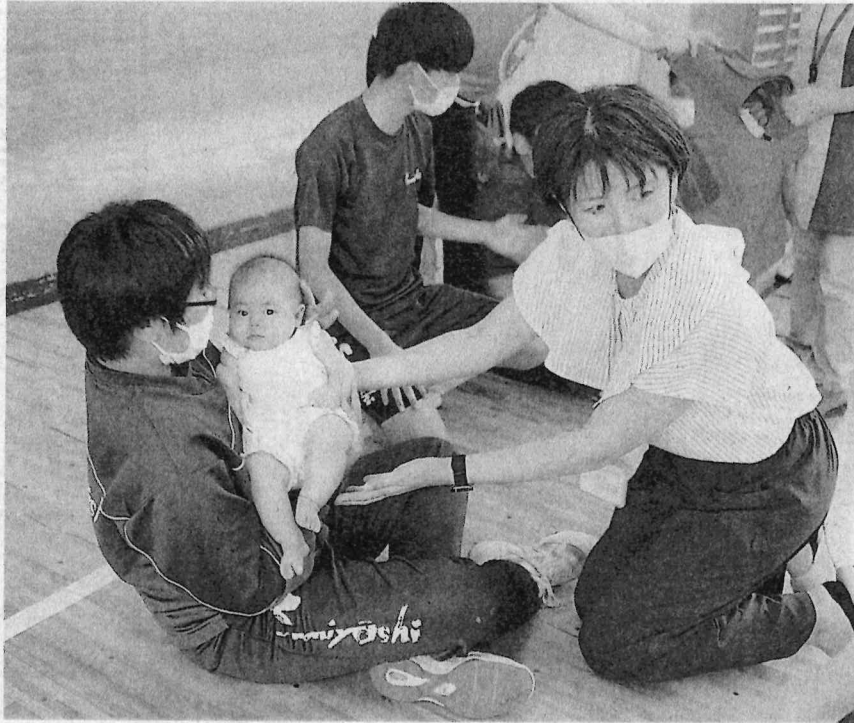
石巻市住吉中(生徒206人)は、3年生79人を対象に「親になるための授業」を体育館で実施した。生徒たちは県助産師会の根本靖子さんから命の尊さや子どもを産み育てることの覚悟と責任、正しい性の知識を学んだ。



母校で「小中合＝赤井南小

命の重みずしり体感

石巻 住吉中



赤ちゃんを抱っこする男子生徒

助産師が「親になるための授業」

体の仕組み把握を 対等な関係築いて

心と体の成長途上にある思春期の中学生が大人になるための準備として企画。市の子育て参加促進事業を活用し、県助産師会から講師やスタッフの派遣を受けた。

根本さんは男女の体の違いや妊娠の仕組みを説明。「男子ども体の仕組みやリズムを知り、セルフチェックをして

思春期の心や男女交際の在り方に触れ「相手の気持ちを尊重する対等な関係性を築いてほしい」と話した。性感染症についても言及し「自分、相手の体、未来を守るために責任ある行動を取る」と助言

授業は9月19日であった。新型コロナウイルスの影響で乳幼児との触れ合い体験は中止していたが、4年ぶりに再開した。

杉山孝一校長は「少子化の中、命の重みに触れる体験は貴重。生徒が将来や自分らしい生き方を考えるきっかけにもつながる」と強調した。

教育